



鈴鹿の風

2016.9

第28号

第3回 筋ジストロフィー医療研究会 「明日への架け橋となれ」会期のご案内

看護部だより

■西2階病棟の取り組み

栄養管理室をご紹介します

新任医師のご紹介

夏季筋セミナーを開講しました

医学コラム

■「くう・ねる・あそぶ」

夏祭りで盛りあがりしました

地域医療連携室だより

■短期入所事業（ショートステイ）について

トピックス

■地元の高校生を受け入れて「一日看護体験」を実施

■「病棟サマースクール」がおこなわれました

職員の輪

平成オタクコラムプロ野球編20

筋ジストロフィー医療研究会
—ハローCQから先端医療へ—

院長 小長谷 正明

病院理念

- 私たちは、国民に奉仕する立場から、政策医療である筋ジストロフィー・重症心身障害・神経難病の分野において、患者様本位で質の高い専門医療を提供します。
- 私たちは、充実した医療と健全な経営を心掛け、常に意識改革を怠りません。

筋ジストロフィー医療研究会 ハローCQから先端医療へ



独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院長 **小長谷 正明**

やっと猛暑の夏が過ぎ、爽やかな秋空が訪れてきました。

さて、第3回筋ジストロフィー医療研究会を鈴鹿病院の主催で、来る10月14・15日に、名古屋国際会議場で開くことになりました。筋ジス医療は当院だけでなく、国立病院機構の大きな柱となっているのはいまでもありません。研究会は、この病気の医療や看護・療育などに関わっている様々な職種の人が全国から集まり、研究成果や知見を発表し、交流する場です。また、学問や医療の先端にいる先生達や、貴重な体験をした方からの、日頃は聞けない有益なお話を、特別講演やセミナーで伺います。成果を学び、新しい知識を自分たちの病院に持ち帰り、さらにより良い筋ジス医療に結びつけることが目的です。

幼児期から筋肉の発達が悪く、進行性の病気があると気づかれたのは19世紀の初めの頃です。そして、今から約150年前の1868年にパリの開業医だったデュシェンヌ先生がこの病気について詳しい論文を書き、先生の業績を記念して代表的な筋ジスはデュシェンヌ型と呼ばれています。尤も、筋ジストロフィーと名前をつけたのはドイツのエルプ先生です。

日本での最初の筋ジスの報告は1887年（明治20年）で、橋本綱常先生のドイツ語論文です。重い知恵おくれもある7歳の女の子なので、後に日本で明らかになる福山型先天性筋ジストロフィーと思われまふ。デュシェンヌ型は翌年に報告され、1892年には、長田喜太郎先生が非常に正確な登攀性起立のスケッチを描いています。文明開化直後の明治のドクトルたちも、一生懸命になって海外の医学を研究していたのです。

その後、遺伝のことや筋肉の病理変化などがわかってきたのですが、なかなか病気のメカニズムがわかりませんでした。一時有力だったのは、神経障害や自律神経の異常による筋肉の微細な血流障害説でした。

手塚治虫先生の代表作の一つ、『ブラックジャック』の第81話『ハローCQ』は筋ジストロフィーの少年の話です。ブラックジャックは「自律神経切断という方法をためしたら治ったことがあります」と言いながら、4千万円を要求しています。（当時といえども、この金額で治るならば安いものですが…）。先生は医専を卒業しており、一時期言われていた自律神経異常説を知ったのでしょう。しかし、『ハローCQ』はこれから手術に入るところで終わっていて、さすがに、手術結果を書くまでの自信はなかったようです。

終戦後の日本で、この病気の子供達の医療や介護環境があまりに悲惨だったので、当時の厚生省が政策医療として筋ジストロフィー病棟を全国27の国立療養所に整備し始めたのが1964年、東京オリンピックの年です。それが、今日の国立病院機構でのセイフティネット系医療のスタートとなっています。

筋ジストロフィーの医療が劇的に変わったのは、デュシェンヌ先生の発表から120年後の1980年代後半です。一つは、コンピューターや精密機械工業の発達で、人工呼吸器療法での生命時間の延長、それを搭載した電動車椅子などでの空間的拡大、インターネットなどのITによる精神的空間の拡大です。筋ジス医療を行っている各病院は積極的にこれらを取り入れ、やっと人間らしい療養をサポートできるようになりました。

そして、言うまでもなく遺伝子の確定です。デュシェンヌ型で分かったジストロフィン異常から、この病気の筋肉の障害メカニズムがかなり明らかになってきました。遺伝子治療が試みられています。先端の生命医学の分野でも、iPS細胞の確立と応用の仕方などと、次々と新しい発見やアイデアが生まれています。何年かのちには、筋ジストロフィーへの先端医療が確立され、治る病気になっているのも、夢でないかもしれません。

第3回 筋ジストロフィー医療研究会

テーマ「筋ジストロフィーに関わる、すべての人のための学会」

明日への架け橋となれ

会期 **2016年10月14日金・15日土**

【受付開始】14日 9:30より 【開始】14日 10:00より 15日 9:00より 【終了】15日 16:00まで
*初日は終了後懇親会を予定しております

会場 **名古屋国際会議場** 〒456-0036 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番1号
TEL 052-683-7711 <http://www.nagoya-congress-center.jp>

大会長 **小長谷 正明** 国立病院機構 鈴鹿病院長

事務局 **独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院**
〒513-8501 三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号 TEL 059-378-1321(代) FAX 059-378-7083




看護部だより

副看護師長 堀越 あゆみ



◆◆◆ 西2階病棟の取り組み ◆◆◆

当病棟は、重症心身障がい児(者)病棟です。人工呼吸器を装着されている方、経管栄養を行っている方もいらっしゃいますが、自力での寝返り・四つ這い・膝立ち・独歩・車椅子自操などが可能な患者さんも多くみられ、動く重心病棟と言われています。患者さんの病状・重症度に合わせ、治療や看護は様々ですが、安全な日常生活援助が重要だと考えています。

現在の看護の取り組みを2点紹介します。

1つ目は摂食嚥下機能の維持・向上への援助です。重心児(者)の多くは、生まれつき、もしくは病状の進行に伴い、摂食嚥下機能の低下がみられます。そのため、各患者さんの摂食機能評価を毎月実施し、結果に応じて訓練や食事形態・内容を検討しています。出来るだけ口から食事が摂れるように口唇訓練・嚥下訓練を実施したり、食事形態をきざみ食～ミキサー食～流動食へ変更したり、楽しく自力で食事が出来るように自助具や訓練皿を使用しています。

2つ目は心身ともに成長発達を促し、日々楽しく意欲的に入院生活を送るための療育活動を指導室と協力して行っています。日常的には、デイコーナーで別室の患者さんやスタッフとゆっくり自由に過ごす時間を設けたり、季節の変化を感じられるよう、お正月・ひな祭り・夏祭り・クリスマスなどの四季折々の行事を開催します。毎月お誕生会を開きみんなでお祝いをしたり、御家族と一緒に郊外に出かけることもあります。

当病棟の患者さんのほとんどは言語的コミュニケーションが難しいため、私たち医療従事者ができるだけ早く異常を発見し、対応することが重要です。日頃から五感を研ぎ澄ませ、患者さんをよ～く観察し、時には五感を越えた第六感も駆使して安全でよりよい看護が提供できるよう努力しています。



食事の面から
治療をサポート!

栄養管理室

をご紹介します!!



栄養管理室では、入院患者さんや通所支援事業をご利用の方の食事を提供しています。当院には長期療養の患者さんが多く入院されているため、出来る限り患者さんの嗜好及び食形態を考慮して安心・安全な食事の提供を栄養管理室職員一同心掛けています。



三山 朋子
主任栄養士
4月に三重中央医療センターから赴任して参りました。三重中央医療センターに10年間勤務していました。筋ジストロフィー、神経難病、重症心身障がい者分野は未経験な分野であり、勉強していくべき点とどのように自分が成長できるか楽しみな点とがあります。そして、患者様に安心・安全、且つ喜んで頂ける食事提供ができるようスタッフとともに努力していきたいと思っております。皆様、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

鈴鹿病院栄養管理室の特徴

- ①個々の患者さんに合った食事提供…食事形態・飲み物・補食等を摂取状況に応じて調整しています。
- ②365日の選択メニューを実施…高エネルギー食・筋ジストロフィー食を摂取される方に実施しています。
- ③多種の濃厚流動食を採用…約30種類の液状・半固形の濃厚流動食を採用しています。

当院栄養管理室では、高エネルギー食・筋ジストロフィー食を召し上がっている患者さんを対象に365日選択メニューを実施しています。昼食及び夕食については、A食又はB食のお好きなメニューをお選びいただけます。



- 高エネルギー食 A**
- ・バターロール
 - ・クリームシチュー
 - ・サラダ
 - ・茹ウィンナー
 - ・杏仁フルーツ
 - ・コーヒー牛乳



- 高エネルギー食 B**
- ・米飯
 - ・ポークステーキ
 - ・野菜ソースかけ
 - ・ひじき野菜大豆煮
 - ・サラダ
 - ・茹ウィンナー
 - ・杏仁フルーツ



Introduce a new doctor!

新任医師のご紹介



の だ せい や
野田 成哉
職名 神経内科医師

4月に名古屋大学から赴任してきました。出身は名古屋市守山区です。平成16年に三重大学を卒業しました。大学時代は、鈴鹿市にある祖父の家で暮らしていました。卒後は、市立四日市病院で8年間の勤務を経て、名古屋大学大学院で4年間、筋肉（主に炎症性筋疾患）の研究を行い、この度鈴鹿病院神経内科医として勤務することになりました。

三重県で働きたいという希望があったため、この病院で仕事ができることを嬉しく思います。しかし、まだまだ不慣れなところがあり、何かとご迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお願いいたします。



Information

夏季筋セミナーを開講しました

8月23日(火)に筋疾患に興味のある若手神経内科医を対象とした神経筋セミナーを当院で開催しました。当日は、東海・北陸地域の病院より10名の若手医師が参加し、小長谷病院院長をはじめとする当院神経内科医より神経筋疾患の呼吸管理や分子遺伝学、心不全などについてレクチャーを行いました。当院には進行性筋ジストロフィーをはじめとする多彩な神経筋疾患患者が入院されており、本セミナーを通じて、急性期の病院では診療する機会の少ない神経筋疾患についての知識を深めました。



医学 コラム

「くう・ねる・あそぶ」

私の好きなテレビ番組のひとつが「プラタモリ」、そのテーマ曲を歌っているのが、歌手の井上陽水さんです。20年ほど前、陽水さんの出演したファミリーカーのテレビ・コマーシャル、キャッチ・コピーが「くう・ねる・あそぶ」でした。ゆる～いコマーシャルは大人気となり、このコピーは、その年の流行語になりました。

循環器内科医の立場から、適切に「食う、寝る、遊ぶ」ことができれば、ヒトは健康に暮らすことができます。老若男女を問わず、質の高い生活をおくる秘訣が、この意味深長な7つのひらがな(くうねるあそ

ぶ)に在るように思います。「くう」はバランスの良い食事を美味しく食べることで、「栄養学」で専門的にあつかわれます。食事や栄養について分からないことがあれば、医師に相談してください。患者さんと家族は、栄養士による指導を受けることができます。

「ねる」は質の良い睡眠をとり、心身ともに休養することで、「睡眠医学」で専門的にあつかわれます。いびき、無呼吸、昼間の眠気などがあれば、睡眠中の呼吸と循環の異常については、内科外来で相談してください。不眠症および幻覚、徘徊、手足の異常運動などの睡眠中の行動異常については、他科を受診していただくことになります。

「あそぶ」は体を動かして、運動能力を維持または増進しつつ、心身ともにリフレッシュすることだと思います。この分野は「スポーツ医学」で専門的にあつかわれます。従来「スポーツ医学」の臨床や研究の

担い手は、骨・筋肉・関節などの運動器の機能と構造に詳しい、整形外科やリハビリテーション科の医師でした。しかし、骨・筋肉・関節を動かすには、心臓が拍動し、呼吸をして、神経が身体のパーツを適正にコントロールすることが前提です。そこで、循環器内科医、呼吸器科医や神経内科医、それぞれの分野の研究者もまた「スポーツ医学」に関わらざるを得なくなりました。アスリートあるいはスポーツ愛好家で、運動に関連してさまざまな症状(息切れ、胸痛、脈の乱れ、運動能力の低下など)があれば、内科外来で相談してください。指導を受けることができます。

毎年、新しい流行語が現れては、消えていきます。しかし「くう・ねる・あそぶ」を超えるキャッチ・コピーには、なかなかお目にかかりません。今週末もまた、「プラタモリ」で、陽水さんのテーマ曲を聴くのを楽しみにしています。

副院長(日本体育協会公認・スポーツドクター) 安間 文彦

夏祭りで盛りあげました



ゲストによるトランペットの演奏

スイカをイメージした出し物で夏らしさを感じました



病院スタッフによるパフォーマンス

会場全体が大いに盛り上がりました



6月29日(木)に東1階・西1階病棟の合同サマーフェスティバルを行いました。院内保育所の園児によるダンスの披露やスタッフによる演劇で夏らしさを感じることができました。また、7月6日(水)には西2階病棟、7月8日(金)には東2階病棟の夏祭りをを行い、ゲストによるトランペットの演奏やスタッフによるパフォーマンスの披露で会場は大いに盛り上がりました。



トピックス



地元の高校生を受け入れて「一日看護体験」を実施



7月28日(木)に地元の高校生を対象に、一日看護体験をおこないました。当院では本体験を通じて、看護に対する認識や理解を深め、看護の道を志すきっかけになることを目的として毎年開催しており、今年度は男女合わせて9名の高校生が参加しました。



楽器演奏とコーラスで美しい音色が響き渡る「病棟サマースクール」がおこなわれました

8月1日(月)から5日(金)にかけて、杉の子特別支援学校による病棟サマースクールがおこなわれました。このイベントは入院されている方々の余暇を深めることや、病棟と三重県立杉の子特別支援学校とのつながりを深めることを目的として毎年おこなわれているものです。当日は特別支援学校教員による楽器演奏とコーラスが披露され、病棟には美しい音色が響き渡りました。

職員の輪



神経内科 医師
南山 誠さん

以前までは、主に神経難病の治療法の研究開発に携わってききましたが、患者さんに寄り添う臨床にて職業人生を終えたいとの思いがあり、平成27年度より当院で働いています。プライベートではベンチプレスや水泳などでトレーニングをしています。ベンチプレスは20歳の頃から始めて、現在まで何十年も続けており、今では朝から115kgを8回3セットこなすのが日課です。今までボロボロだった身体の健康回復のため、約2年前から本格的に続けている水泳は、週に合計で7kmほど泳いでいます。これからも体力増強と健康増進のために続けていきたいと思っています。



朝から115kgを8回3セットこなす

通勤の合間に腕力トレーニング 50kgを15回3セット(左右)

地域医療連携室だより

短期入所事業(ショートステイ)について

地域において、在宅生活の充実を図るための事業です。ご家庭で過ごされている障がいを持つ方が、通常のご家族の生活枠を越えた事態に対応して一時的に病院内で過ごしていただけるサービスです。

■ご利用される方のニーズ

ご家族の休養・休息、冠婚葬祭、ご家族の病気・体調不良、ご出産など

■手続きの方法

ご利用申し込みまでには、当院への事前登録(小児科外来受診)が必要となります。ご利用希望の方は地域医療連携室までお問い合わせください。

■ご利用いただける方

状態の安定された重症心身障がい児者が主に対象となります。当院との利用契約を含めた事前登録が必要となり、ご利用は契約に基づき実施します。

どうぞお気軽にご相談ください

- 治療を目的としたサービスではありませんので、健康状態が安定しておられる時の利用に限ります。
- 医療的ケアの高い方については、条件等によりご利用が難しい場合もあります。
- 詳しくは地域医療連携室にお問い合わせください。

お問い合わせ先 ☎059-378-1321 地域医療連携室(担当:山方)

平成オタクコラム プロ野球編20

臨床研究部長 久留 聡

二〇〇〇年のシーズン、ドラゴンズは新戦力として二人の外人を補強した。デーブ・ニルソンとメルビン・パンチである。ニルソンは出身地オーストラリアの野犬の名にちなんで登録名を「デインゴ」とした。この名を聞いて真っ先に思い浮かんだのは手塚治虫の医療マンガ「ブラックジャック」のエピソードである。ブラックジャックが旅行先のオーストラリアでエヒノコックスという寄生虫に感染してしまう。得意の無菌テントの中で自分で自分の手術をするBJであったが、血のにおいを嗅ぎ付けたデインゴの襲撃を受ける。危うしBJ!というストーリーなのだ。この後どのように危機を乗り越えたのかは残念ながら憶えていない。野球の方のデインゴは、現役パリパリのメジャーリーガーでポジションは捕手。あの野茂とバッテリーを組んだこともあることであつた。

現役パリパリの選手としては、あのホブ・ホーナー以来ということでは、上にも期待は高まった。キャンプやオープン戦を通して評論家たちは彼を絶賛して、活躍間違いなしと太鼓判を押した。あまりの評判のよさに、逆に不安を憶えていたが、その不安は見事的中してしまつた。極度の打撃不振で全く活躍できず失意のうちに退団してしまつたのでした。活躍できなかった原因としては二つ考えられる。一つは本職はキャッチャーなのに慣れない外野を守らされたこと。もう一つは、開幕直後の巨人戦で工藤、メイ、高橋尚成の三人の強力な左投手に当たって完全に打撃を狂わされたことである。もう一人の外野手は対照的に絶対好調で、四月七日の横浜戦では何とノーヒット・ノーランを達成してしまつた。この試合でデインゴは来日して最初の、そして結局最後となる唯一のホームランを放っている。それは場外へと消える特大の一発であつた。

◆ 外来診察担当表 (2016年9月1日現在)

	月	火	水	木	金
神 経 内 科	小 長 谷	酒 井 木 村	久 留 南 山	小 長 谷	久 留
内 科	野 口	内科医師	安 間 (循環器内科)	安 間 (循環器内科)	棚 橋 (循環器内科)
小 児 科		予 約			予 約
整 形 外 科		田 中 (装具外来)			田 中
リハビリテーション科					田 中
皮 膚 科		予 約			
歯 科	留 奥	加 藤 (午後)		永 田 (午後)	
禁 煙 外 来	野 口			安 間	

- 外来受付は8:30~11:00、診療開始は9:00~です。
- 歯科は身体障害者の方に限ります。
- 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越しください)。
- 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約ください。
- スギ花粉症でお悩みの方を対象に舌下免疫療法を実施しています。(月曜日)
- 土曜日、日曜日、祝祭日は休診です。

◆ 交通案内

- JR「加佐登」駅より徒歩8分
- 東名阪「鈴鹿」I.C.より車8分
- 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- 鈴鹿市西部地域コミュニティバス 椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ



◆ 編集後記

熱気にあふれ、歓喜に沸いた夏も終わり、本格的な秋のシーズンが到来。“食欲の秋”は旬を迎える食材も多く楽しみな時期ですが、食べ物による健康被害や食中毒への注意も怠ってはいけません。体調を万全に整えて“スポーツの秋”、“芸術の秋”を満喫したいものですね。